

## Annual European Society for Artificial Organs (ESAO) Congress 参加印象記

北里大学大学院医療系研究科

栗原 佳孝

Yoshitaka KURIHARA



42<sup>nd</sup> Annual European Society for Artificial Organs (ESAO) Congressは、ベルギーのLeuven (ルーヴェン)で、2015年9月2日(水)～5日(土)の日程で開催された。ルーヴェンはベルギーの首都ブリュッセルから東に約25 kmの位置にあり、世界有数のビール醸造所の本社があるなど、ベルギービールの中心地として有名な町である。また、ヨーロッパ最古のカトリック大学であるルーヴェン・カトリック大学がある学園都市としても知られている。大学の学生数は4万人を超え、キャンパスが町の中心部に点在しているため、朝の通学時間には街を学生たちが大移動する光景があちこちでみられ、まさに大学の街という印象を受けた。

第42回大会の大会長はそのルーヴェン・カトリック大学のBart Meyns教授が務められ、会場も同大学・附属病院のあるキャンパス内であった。大会テーマは『Artificial Organs Tailor Made』であった。例えば、“Dialysis home therapy”のシンポジウムで、患者のライフスタイルに合わせた在宅透析が議論されるなど、Tailor Madeのテーマに沿ったシンポジウムもいくつか企画されていた。今回の総演題数は278演題(特別講演・招待講演・シンポジウムが計76演題、口演が121演題、ポスターが81演題)あり、それぞれ活発な議論が行われていた。日本からの演題も35演題あり、会場内でも多くの日本の先生方を目にすることができた。

International Federation on Artificial Organs (IFAO) シンポジウムでは、Japan Society for Artificial Organs (JSAO) を代表して、国立循環器病研究センター中谷武嗣先生が、“Present status of Heart transplantation – from the

standpoint of mechanical support”, 東京大学小野稔先生が、“Present status of continuous-flow ventricular assist device in Japan – Report from J-MACS” というタイトルでご講演され、American Society for Artificial Internal Organs (ASAIO) からも昨年の学会の内容を紹介する講演があった。JSAO, ASAIO, IFAOがそれぞれの学会でシンポジウムを行う一連の企画は、お互いの学会での研究トレンドを知ることができ、非常に良い企画と感じた。ただ、ランチ直後のセッションであったため、まだ食事をしている先生方もいて、参加人数が少ないのが残念であった。

私は“Optimum filtration flow rate of newly developed 100-micron hollow fiber hemofilter” というタイトルでポスター発表させていただいた。座長をESAOの理事長であるBernd Stegmayr先生がされるということで、非常に緊張したが、とてもフレンドリーにディスカッションをさせていただき、貴重な経験をすることができた。また我々の開発している小型血液浄化器にも興味を持っていただけたようで、ESAO Poster Awards 候補にも選出していただいた(図1)(残念ながら受賞には至らず)。本研究は、山梨大学医



図1 ESAO Poster Awards 候補演題に貼られたマーク

### ■ 著者連絡先

北里大学大学院医療系研究科

(〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1)

E-mail. dm13016a@st.kitasato-u.ac.jp



図2 サイコロ型のマイクを使った質疑応答



図3 ルーヴェン市内の様子(左), 市庁舎(右)

学部救急集中治療医学講座の松田兼一教授との共同研究として実施している。今後、新しい小型血液浄化器の開発に向けて、さらに頑張っていきたいと思う。

今回の学会で、面白かったのは、口演でのディスカッションのときに使用していたマイクである。サイコロのような形をしたマイクを座長から質問者へ、または質問者間で投げ渡しながらか質問を行っていた(図2)。はじめは驚いたが、場の雰囲気が和みながら、質疑応答が進んでおり、国際学会ならではの楽しい雰囲気を作る一助となっていたように思う。

学会2日目の夕方からはguided city visitが企画されていた。ルーヴェンの街の中を歩きながら、現地のガイドさんに案内していただき、市内観光をすることができた(図3)。特にルーヴェンの市庁舎は細部まで細やかな彫刻が施され

た美しい建物で、とても印象に残っている。ヨーロッパの中世の街並みを堪能しつつ、そのまま networking reception (懇親会)会場へ向かった。懇親会では、ベルギービールを十分に堪能できた。

来年のESAO Congressは、ワルシャワ(ポーランド)にて9月14~17日の日程で行われる予定となっている。ESAO Congressでは、学会前日に若手が気軽に議論して交流する研究発表会としてyoung ESAO (yESAO)も開催されている。今回は日程の都合で参加できなかったが、ぜひ来年もESAOに参加して、できればyESAOにも参加してみたいと思う。若手の方、一緒に行ってみませんか。

本稿の著者には規定されたCOIはない。